

2025年3月期第3四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2025年3月期第3四半期決算説明資料

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=Mt7Uytz%2b9fM%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=Mt7Uytz%2b9fM%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=Mt7Uytz%2b9fM%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード(High Density Interconnect)

■ご説明

2025年3月期 第3四半期決算

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。



- ・2024年度第3四半期累計の対前年同期比は、機能材料セグメントでMicroThin™などの主要製品の販売量が増加したことや、金属セグメントで為替の円安や金属価格が上回って推移したことおよびそれらに伴う在庫要因の好転等があったことにより、増収増益となった
- ・通期予想は、金属セグメントでの為替の円安と金属価格が上回って推移したことによる収益改善およびそれらに伴う在庫要因の好転等により、対前回予想比で増収増益を見込む

(単位: 億円)	Q1-3実績			通期予想		
	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2024 前回予想	増減 (今回-前回)
売上高	5,259	4,765	494 10.4%	7,100	6,950	150 2.2%
営業利益	562	148	414 279.8%	660	560	100 17.9%
経常利益	591	270	322 119.3%	685	550	135 24.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	521	152	370 243.5%	570	465	105 22.6%

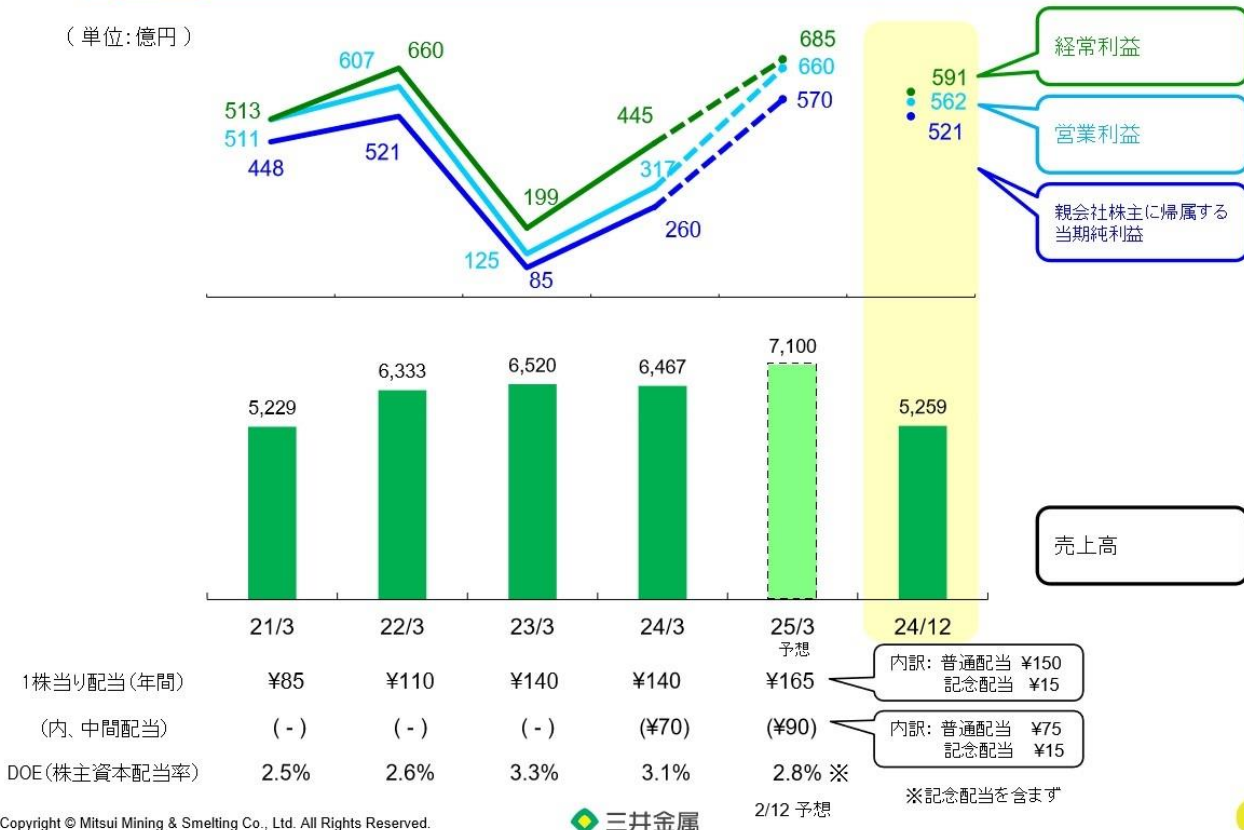
決算説明資料 1 ページをご覧ください。

・2025年3月期第3四半期累計での売上高は5,259億円、営業利益は562億円、経常利益は591億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は521億円となりました。

・2025年3月期の連結業績予想は、売上高7,100億円、営業利益660億円、経常利益685億円、当期純利益570億円と見込んでおり、11月8日に公表しました前回予想を修正しております。なお、1-3月の前提につきましては、LME 亜鉛価格2,900ドルトン、LME 鉛価格2,000ドルトン、LME 銅価格400セント/ポンド、為替は155円としております。

売上高・利益

(単位: 億円)



Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

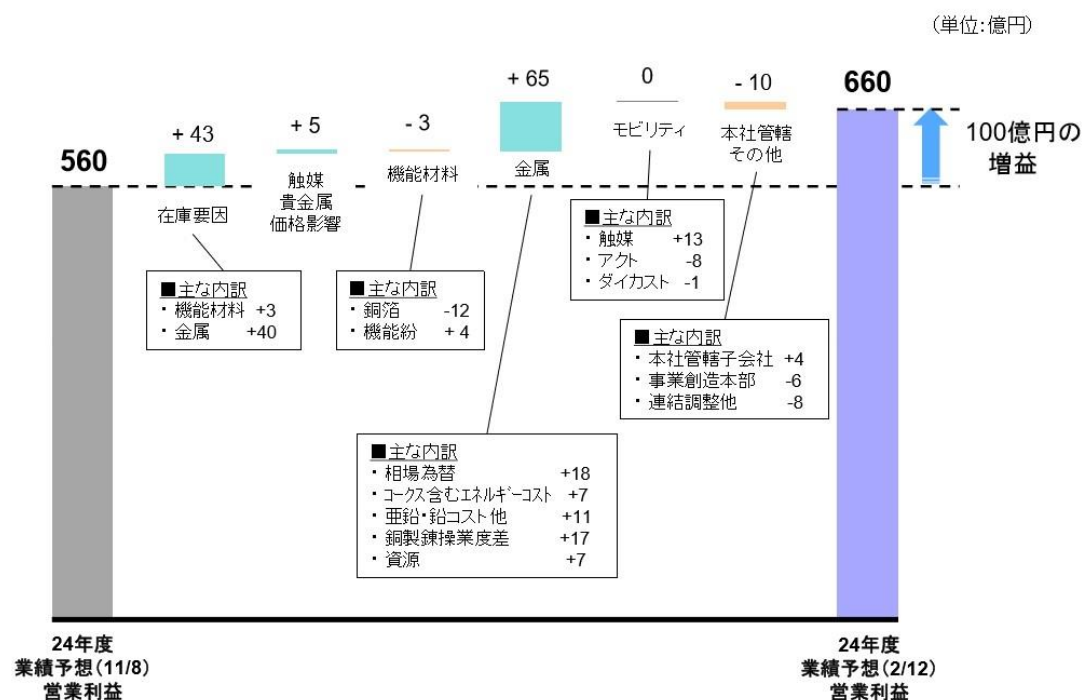


決算資料 2 ページをご覧ください。

• ページの下に記載しております配当につきまして、既に実施しました中間配当 1 株当たり 90 円、これに期末配当 75 円とし、年間 165 円と、これまで公表している配当予想から変更はございません。

24年度営業利益見込(対前回業績予想)

24年度営業利益は前回業績予想比で100億円の増益を見込む



続きまして、資料 4 ページをご覧ください。通期の業績予想について、11月8日に公表しました前回予想との対比でご説明いたします。

・営業利益の通期見通しは、前回予想より100億円増益の660億円を見込んでいます。内訳を見ますと、在庫要因で43億円の好転、その右の触媒事業における貴金属価格の影響でプラス5億円と、約半分を占めています。

・セグメント別では、金属セグメントが65億円と大幅なプラスを見込んでおります。亜鉛など金属価格の好転や為替の円安進行の他、エネルギーコストの減少、各種固定費の減少などが主な要因です。

・機能材料セグメントでは、MicroThin™や電解銅箔の販売量減少で銅箔事業が12億円のマイナスであるものの、機能粉事業の主要製品の販売増などにより、機能材料セグメントでは3億円のマイナスにとどまりました。

・モビリティセグメントでは、触媒事業の販売量増加による増益を見込むものの、アクトの減販などにより、セグメント全体では前回どおりの利益を見込んでいます。

・本社管轄他で10億円のマイナスを含め、営業利益660億円と、前回予想から100億円の増益を見込んでいます。

損益計算書

(単位: 億円)	実績			予想				
	'24/Q1-3 実績	'23/Q1-3 実績	増減 (24-23)	2024 今回予想	2023 実績	増減 (24-23)	2024 前回予想	増減 (今回-前回)
売上高	5,259	4,765	494 10.4%	7,100	6,467	633 9.8%	6,950	150 2.2%
売上原価	4,139	4,102	37 0.9%	-	-	-	-	-
売上総利益	1,120	663	457 68.9%	-	-	-	-	-
販売費・管理費	558	515	43 8.3%	-	-	-	-	-
営業利益	562	148	414 279.8%	660	317	343 108.2%	560	100 17.9%
営業外収支	29	122	-93	25	128	-103	-10	35
経常利益	591	270	322 119.3%	685	445	240 53.9%	550	135 24.5%
特別損益	80	-58	138	68	-60	128	70	-2
税引前利益	671	211	460 217.6%	753	385	368 95.4%	620	133 21.5%
税金費用・非支配株主帰属損益	149	59	90	183	126	58	155	28
親会社株主に帰属する 当期純利益	521	152	370 243.5%	570	260	310 119.3%	465	105 22.6%

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



5

第3四半期累計期間の実績と通期の見通しについてご説明いたします。5ページの損益計算書をご覧ください。

- ・第3四半期累計期間は、前年同期に対し、亜鉛価格の上昇や為替の円安、機能材料セグメントの銅箔事業や機能粉事業の主要製品の販売量増加などにより、売上は494億円増加の5,259億円となりました。
- ・営業利益は、売上増加の要因に加えて、在庫要因や貴金属価格影響の好転により、前年度比414億円増加の562億円となりました。
- ・経常利益は、営業利益の好転に加えて、昨年度の一過性の受取配当金の剥落や営業外為替損益の悪化により、322億円増加の591億円となりました。
- ・当期純利益は、今年度に政策保有株式の売却によるプラス94億円や、事業譲渡に伴う関係会社株式売却益プラス22億円により特別利益が増加し、税金費用などを加味した結果、521億円となりました。

主要製品の動向

			2022					2023					2024予想(2/12)					2024予想(11/8)			
			Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4 予想	下期 予想	通期 予想	下期 予想	通期 予想	
機能材料	MH合金	販売量	指数	100	108	117	105	107	118	106	118	116	114	131	133	149	134	141	137	146	139
	銅箔	販売量	千円	1,800	1,250	1,450	990	1,370	1,300	1,490	1,600	1,550	1,490	1,680	1,650	1,680	1,570	1,620	1,650	1,780	1,720
	MicroThin™ (a) + (b)	販売量	指数	100	74	52	26	63	76	74	74	79	76	86	92	77	70	73	81	91	90
	HDI向け MicroThin™ (a)	販売量	指数	(18)	(17)	(16)	(10)	(15)	(16)	(18)	(16)	(14)	(16)	(21)	(19)	(16)	(12)	(14)	(17)	(16)	(18)
	PKG向け MicroThin™ (b)	販売量	指数	(82)	(57)	(36)	(16)	(48)	(60)	(56)	(58)	(65)	(60)	(65)	(73)	(61)	(58)	(59)	(64)	(75)	(72)
	ITO	販売量	指数	100	63	69	63	74	72	81	70	69	73	74	73	66	63	64	69	65	69
金属	亜鉛	生産量	千t	55	58	54	53	220	44	60	54	53	211	56	47	56	63	118	221	120	222
モビリティ	二輪触媒	販売量	指数	100	122	114	107	111	116	116	116	116	116	124	123	117	114	116	120	112	118
	インド向け	販売量	指数	(100)	(117)	(97)	(94)	(102)	(112)	(116)	(117)	(113)	(114)	(127)	(128)	(111)	(107)	(109)	(118)	(106)	(117)
	インドネシア向け	販売量	指数	(100)	(188)	(227)	(235)	(188)	(183)	(198)	(195)	(232)	(202)	(181)	(222)	(198)	(210)	(204)	(202)	(209)	(205)
	その他地域向け	販売量	指数	(100)	(115)	(115)	(99)	(107)	(105)	(97)	(97)	(93)	(98)	(105)	(93)	(107)	(105)	(106)	(102)	(99)	(99)
	四輪触媒	販売量	指数	100	143	131	130	126	142	163	165	156	156	143	139	144	141	142	142	130	135
	サイドドア ラッチ	販売量	指数	100	113	108	110	108	107	115	124	108	113	101	103	107	97	102	102	106	104
	日本向け	販売量	指数	(100)	(119)	(132)	(119)	(117)	(112)	(131)	(142)	(114)	(125)	(102)	(116)	(127)	(115)	(121)	(115)	(121)	(115)
	中国向け	販売量	指数	(100)	(121)	(85)	(82)	(97)	(83)	(84)	(98)	(70)	(84)	(60)	(61)	(71)	(51)	(61)	(61)	(69)	(65)
	その他アジア向け	販売量	指数	(100)	(116)	(124)	(120)	(115)	(95)	(118)	(120)	(107)	(110)	(90)	(104)	(96)	(99)	(98)	(97)	(96)	(97)
欧米向け	販売量	指数	(100)	(99)	(101)	(121)	(105)	(131)	(130)	(134)	(138)	(133)	(141)	(129)	(129)	(133)	(131)	(133)	(132)	(134)	

指数：2022年Q1を100として表示

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



11

決算資料 11 ページ、主要製品の動向をご覧ください。






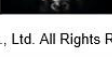
・今回、PKG 向け MicroThin™が第3 四半期と第4 四半期と一旦在庫調整に入る見込みを受けて、指数が 61、58 と減少しておりますが、この在庫調整はあくまで一部地域にとどまっているということもありまして、来年度早々には回復局面に戻るのではないかと見込んでおります。よって、PKG 向け MicroThin™の来年度の販売量についても今年度比で増加を見込んでおり、中期的な MicroThin™の成長シナリオの方向性に現時点では変更はございません。

セグメントの業績(1) 機能材料

(単位: 億円)

	24/Q1-3 実績	23/Q1-3 実績	増減 (24-23)	FY2024 今回予想	FY2023 実績	増減 (24-23)	FY2024 前回予想	増減 (今回-前回)
■売上高	1,163	913	250	1,570	1,241	329	1,550	20
■営業利益	200	108	92	250	154	96	250	0
■経常利益	200	110	90	245	164	81	235	10
※実力損益	172	95	77	216	148	68	209	7

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・リチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> ・各種電子部品 ・ガラス研磨材
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> ・高密度半導体パッケージ材料 ・プリント配線基板
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> ・フラットパネルディスプレイ
セラミックス	 <ul style="list-style-type: none"> ・高温用窯道具、電子部品用窯道具 ・熔融アルミニウム濾過装置
レアアース化合物 (日本イットリウム)	 <ul style="list-style-type: none"> ・半導体製造装置向け保護材 ・電材用添加剤

経常利益の増減説明

[23/Q1-3→24/Q1-3 + 90]
 銅箔 +59 (電解銅箔・MicroThin™増販、他)
 機能粉 +21 (主要製品増販 他)

[FY2023→FY2024予想 + 81]
 銅箔 +55 (電解銅箔・MicroThin™増販、他)
 機能粉 +19 (主要製品増販 他)

通期見通しについては、セグメントごとにご説明いたします。最初に、機能材料セグメントです。資料 13 ページをご覧ください。

・機能材料セグメントについて、昨年度から 24 年度上期まで回復基調継続も、24 年度第 3 四半期に入り、電解銅箔のトータルの数量や MicroThin™では、一旦調整局面に入る見込みです。右下に記載がありますとおり、第 3 四半期累計期間および通期見込みの経常利益について、前年同期比ではそれぞれ増益であり、電解銅箔や MicroThin™の販売量増加、機能粉事業の主要製品の販売量増加などによります。

セグメントの業績(2) 金属

(単位: 億円)

	24/Q1-3 実績	23/Q1-3 実績	増減 (24-23)	FY2024 今回予想	FY2023 実績	増減 (24-23)	FY2024 前回予想	増減 (今回-前回)
■売上高	2,132	1,759	373	2,940	2,468	472	2,790	150
■営業利益	316	13	302	370	64	306	265	105
■経常利益	344	116	228	395	161	234	280	115
※実力損益	226	129	97	287	157	130	212	75

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

経常利益増減分析

	23/Q1-3→ 24/Q1-3	FY2023→ FY2024予想
相場・為替	57	76
T/C条件(亜鉛)	-32	-39
たな資産在庫要因	131	103
持分法損益	-3	8
エネルギーコスト (上記のうち、コークス)	43 (4)	50 (10)
受取配当金	-68	-68
その他※	100	104
合計	228	234

2024年度年間損益感応度(経常損益)

(単位: 億円)

	フルオープン	予約含む
亜鉛(LME) ±100\$/t	15.4	13.0
鉛(LME) ±100\$/t	3.7	3.7
為替 ±1yen/\$	5.2	4.1

亜鉛TC条件

	FY2023	FY2024
274 \$/t	274 \$/t	165 \$/t
・3,000\$/t以上で+6%		

※その他の主な内訳

23/Q1-3→ 24/Q1-3	亜鉛製錬操業好転+13、鉛操業度差+3、鉛原料代差+3 亜鉛・鉛固定費(大定修+15含む)-3、銅製錬操業好転+38、 銅製錬コスト(大定修-24含む)-15、PGMリサイクル+11、資源+37
FY2023→ FY2024予想	亜鉛製錬操業好転+11、鉛原料代差+5、 亜鉛・鉛固定費(大定修+15含む)-6、銅製錬操業好転+43 銅製錬コスト(大定修-24含む)-21、PGMリサイクル+8、資源+41

続きまして、金属セグメントです。14 ページをご覧ください。

・左下の増減分析のとおり、第3四半期累計期間および通期見込みの経常利益について、前年同期比では、今年度の亜鉛価格が平均2,900ドルと相対的に高水準で推移したことや為替の円安が進行したことにより、相場・為替およびそれらに伴う在庫要因の好転、コスト面ではコークスや電力代など、エネルギーコスト減少が大きな増益要因となっております。

セグメントの業績(3) モビリティ

(単位: 億円)

	24/Q1-3 実績	23/Q1-3 実績	増減 (24-23)	FY2024 今回予想	FY2023 実績	増減 (24-23)	FY2024 前回予想	増減 (今回-前回)
■売上高	1,540	1,675	-135	2,030	2,184	-154	2,010	20
(内、三井金属アクト)	(721)	(745)	(-24)	(945)	(976)	(-32)	(963)	(-18)
■営業利益	114	68	45	145	102	43	140	5
(内、三井金属アクト)	(4)	(8)	(-4)	(1)	(7)	(-6)	(10)	(-8)
■経常利益	106	73	34	135	113	22	120	15
(内、三井金属アクト)	(0)	(9)	(-9)	(-3)	(11)	(-13)	(5)	(-8)
※実力損益	99	110	-10	125	141	-16	115	10

※実力損益：経常利益から触媒貴金属価格影響を除いたもの

経常利益の増減説明

(モビリティ事業本部)	(主な製品)
触媒	 <ul style="list-style-type: none"> ・二輪車・四輪車 排ガス浄化触媒
三井金属アクト	 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車用ドアロック
三井金属 ダイカスト	 <ul style="list-style-type: none"> ・ダイカスト製品

[23/Q1-3→24/Q1-3 + 34]

触媒 +51 (貴金属価格影響好転 他)
アクト -9 (減販、コスト改善 他)
ダイカスト -5 (減販、コスト悪化 他)

[FY2023→FY2024予想 + 22]

触媒 +45 (貴金属価格影響好転 他)
アクト -13 (減販、コスト改善 他)
ダイカスト -5 (減販、コスト悪化 他)

アクト増減分析

	23/Q1-3→ 24/Q1-3	FY2023→ FY2024予想
増減販	-13	-31
コスト削減	9	29
その他※	-5	-11
合計	-9	-13

※その他の主な内訳

	23/Q1-3→ 24/Q1-3	FY2023→ FY2024予想
銅材等材料価格差	4	7
為替差	-8	-13
退職給付債務	0	-6
輸送費	-1	0

続きまして、モビリティセグメントです。15 ページをご覧ください。

・排ガス浄化触媒について、二輪向けは今年度に入り昨年度からの好調が継続しております。第3四半期以降、インドが減少するという季節的要因はあったものの、前年同期比では同水準の販売量を見込んでおります。一方で、四輪向けは中国での日系カーメーカーの販売苦戦やアメリカでの減販等もあり、前年同期比では販売量減少を見込んでおります。

・もう一つの主要製品であります三井金属アクトのドアロックについて、昨年からの半導体不足影響の緩和等もあって自動車市況全体は回復基調ではありますが、四輪向け触媒同様、中国での日系カーメーカーの販売苦戦が継続しており、前年同期比で売上減少を見込んでおります。

・第3四半期累計期間および通期見込みの経常利益は、アクトのドアロックやダイカストの減販によるマイナスを触媒事業のプラスが上回り、結果的にモビリティセグメントは前年同期比でプラスとなっております。ただ、触媒事業の好転要因は貴金属価格影響の好転がメインであり、実力ベースでは対前年同期比で大きく上回っているとは言えないという状況でございます。

■ 質疑応答

【機能材料セグメント】

- Q. 決算説明資料 P.11 で、電解銅箔、MicroThin™の需要動向、VSP の変動の背景などについて解説いただきたい。
- A. MicroThin™の PKG 向けは、第 3 四半期から第 4 四半期にかけて減っているが、当社としては一時的なものだと受け止めている。特に韓国のお客様で在庫調整があったものの、その他の地域は比較的堅調に推移しており、こちらは来年度以降も伸びていくと考えている。主に減っているのは、非スマホのメモリ用途、DRAM 関係である。HDI 向けは季節的要因であり、新モデルの作り込みが終わった第 3 四半期と第 4 四半期は一旦落ち着くといった毎年同様の動向である。
電解銅箔は、第 3 四半期から第 4 四半期にかけて、全体的にやや在庫調整局面に入ったところである。一方で、ハイグレード VSP は好調継続し、第 3 四半期から第 4 四半期にかけて前回決算での見込と同じくらいの引き続き高い伸びを示しており、年間予想販売数量は対前年同期比でほぼ倍増している。ただし、それ以外の銅箔、例えば通信インフラ向けの中でも、ローエンドやミドル、フレキ向けや汎用箔に近い製品に関しては、第 3 四半期から第 4 四半期にかけてやや減販しており、それぞれ需要が少し落ちている状況である。
- Q. MicroThin™について、PKG 向けで DRAM 関係は来期には早々と回復してくるという見通しの背景と、従来の成長シナリオに変化はないか教えていただきたい。また、HDI 向けについて、新規顧客の動き等があるか解説いただきたい。
- A. 韓国以外も含めたお客様の話から、MicroThin™や電解銅箔によくある市場全体が落ち込む状況ではないと見ている。あくまで今回の減販は韓国のお客様の個別要因によるところが大きく、来年以降は引き続き増加に転じるだろうと当社は考えている。来年度の受注が既に来ているなどの話があるわけはないが、このまま落ちていき、来年以降も減販が続くという見方はしていない。また、HDI 向けについては、中華系スマホへの採用は足元広がっているが、前回と比べての新規顧客での採用はない。
- Q. MicroThin™の PKG 向けでの非スマホ/スマホ比率について解説いただきたい。
- A. スマホ向け/非スマホ向けについて、第 3 四半期は非スマホが少し減ったこともあり、スマホ向けが 55% ぐらいと見ている。通期では、スマホ向け/非スマホ向けは 50% ずつぐらいになる見込みである。
- Q. VSP の販売数量について、結果として今期 VSP の電解銅箔トータルに占める比率がどう変わり、今後それをどう見ているのか。
- A. 今回の第 4 四半期の見込みでは、電解銅箔の販売数量におけるハイグレード VSP 比率は 20% を少し上回るぐらいである。第 3 四半期では 15% ぐらいだったので、電解銅箔全体は減っているものの、ハイグレード VSP の比率は着実に上がってきている。おそらく来年以降、電解銅箔の販売数量が大きく増えることは考えにくい、ハイグレード VSP の販売増加により比率が高まることでミックスが改善し、マージンも改善していくと考えている。
- Q. 電解銅箔について、ローエンドやフレキ向けが落ちている背景を教えてください。
- A. ローエンドやミドルレンジのサーバーの需要が引き続き低迷していることが大きな要因である。また、フレキ向けが減っているのは、韓国系のスマホが第 3 四半期から第 4 四半期にかけて一服する見込みを織り込んでいることが要因である。
- Q. P.9 の機能材料セグメントの分析について、マージン・コストの改善による増益効果は、意図したところから従って成果が上がってきているのか。固定費増の価格転嫁としての値上げ効果は通期でどう見込んでいるか、また、増益効果が今後に繋がってくるのか解説いただきたい。
- A. 機能材料のマージン・コストに今回取り組んでいる銅箔の値上げ効果が含まれており、前回決算の 10 億円から 15 億円ほど織り込んでいるという説明に対し、減販することで影響額は減るが、値上げ効果は 10 億円から 15 億円ほどの範囲に入っている。その他のマージン・コストについて、非常に細かいものも多く、具体的に大きな要因はない。MicroThin™と銅箔の値上げ効果は間違いなく来年も効いてくるだろうと考えている。

- Q. P.4の銅箔のマイナス4億円はほぼ数量要因で他の要因は含まれていないか。
- A. 銅箔のマイナス4億円は、数量差によるものが大きい。例えばハイグレードVSPが増えたことによるミックス改善といった好転要因等もあるが、MicroThin™、電解銅箔の減販がマイナスの主要因である。
- Q. 前回決算で為替の影響としてマレーシアリングットの説明があったが、今回どう織り込んだか解説いただきたい。
- A. 前回の決算説明では、マレーシアリングット高のため、先行きを1ドル当たり4.2リングットぐらいで見っていたのが、今回は足元リングット安で推移したことで、1ドル当たり4.4リングットに見直している。その結果、銅箔の-margin部分にも為替の好転影響が含まれている。P.4の銅箔の対前回業績予想比較に、リングット安による好転部分も多少織り込んでいます。
- Q. P.4で機能粉が今回改善している要因を解説いただきたい。
- A. 機能粉事業の中で、主に良かったのはセリウム系のガラス研磨材であり、お客様の方で歩留まりが落ちたため、結果的に販売量が増えたことが大きな要因である。その他の製品についてはそこまで好転していない。

【金属セグメント】

- Q. 今回コスト面など相場以外での好転要因が多い背景と、下がったコストは次年度以降も続くと予想しているか解説いただきたい。
- A. 好転要因は、リサイクル原料による原料代の減少や細かいコスト減によるもので、これらが来年度も続くのは難しいのではないかと考えている。
- Q. 亜鉛や銅で鉱石のTC/RCが下がっているが、現時点での感応度について、銅と亜鉛でそれぞれどう試算しているか。
- A. 亜鉛について、100ドル下がると30億円程度の影響が出ると試算している。銅について、現在報道されている条件で試算すると、当社としてはPPCの持分法ベースの影響額が30億円から40億円ぐらいのマイナスだと現時点では見ている。

【モビリティセグメント】

- Q. P.11で四輪触媒が前回予想から上方修正している背景と今後の見通しについて解説いただきたい。
- A. 四輪触媒は、アメリカの販売好調や、中国の減販が想定ほどではなかったことにより、11月の前回予想と比較すると販売数量は増えている。四輪触媒の今後の見通しについて、前回予想比では増えているが前年実績比では減っており、あまり強気な見方はできない状況である。

【全社】

- Q. P.18で、第4四半期の営業利益が第3四半期と比べて下がることについて、モビリティのマイナスは数量要因なのか、機能材料の機能粉のマイナスと本社管轄その他マイナスは本当にここまで悪くなるのか、全体的に教えていただきたい。
- A. モビリティは、触媒、アクトともに減販による影響である。機能粉のマイナス4億円は、第3四半期と比較して、銅粉、銀コート銅粉、酸化タンタルを減販と見ている。銅粉は、第3四半期から第4四半期にかけて中国での販売が少し落ちると見ている。酸化タンタルも中国での販売不振を見ている。銀コート銅粉は、先方トラブルによって結果的に一時的な減販が出てくる。本社管轄のマイナス23億円は、本社費が増える見込みの他、連結調整等や端数調整も入っており、ここまで発生しない可能性もある。ただ、現時点では規模的には近いマイナスが出るのではないかという見込みである。

以上